東京歯科大學同窓会報

東京都千代田區神田三崎町一ノ七
発行所 東京歯科大学同窓会
編輯兼発行人 加藤倉三
電話九段(33)一〇〇〇

同窓六千の悲しみも新たに

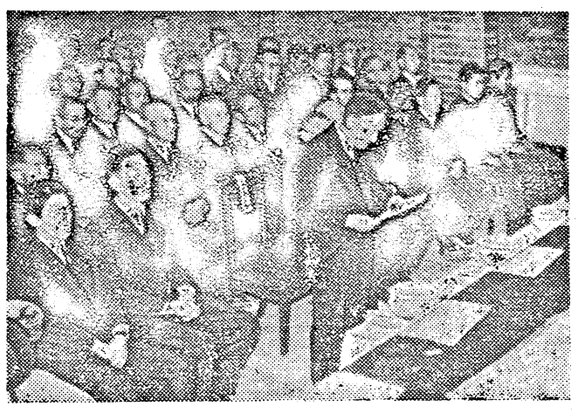
血脇先生 一週忌 追悼會

母校中央ホールに開催

昨年一月二十四日、我々同窓の慈父血脇先生が逝かれてから、早や一年を過ぎた今、先生に対する追慕の情の愈々強く、愈々深くなるのを覚える。

去る二月二十二日午前十時母校中央ホールに於て母校並に本会主催の下に故先生を偲ぶ追悼会が催された。遺族の方々を初め知己、朋友、数百の教え子達が参集して悲しみも新たに偉大であつた先生を偲んだ。

読経に次いで奥村学長の追悼の辞があり、遺族を代表して次男秀雄氏の挨拶、石塚三郎氏、亀山孝一氏、北島多一氏等友人の追憶談があつて後、会員黙祷して午前十一時十分会を閉じた。（写真は追悼の辞を朗む奥村学長）



追悼の辞

先生が他界されてから早くも一週忌を迎えることになりました。吾等の涙痕は新に追慕痛惜の思いに堪えざる次第であります。過去一年を振り返つてあまりにも慌しく又あまりにも多事なりしことを思い出て、一々これを御報告申上ることが困難な程であります。

然し本校の内容を改善し充実せんとする希望は益々強く同窓、校友、職員、学生一團となつて先生の遺業を大成せんとする熱意に燃え着々之が実現に努めて居ります。此點は充分御安心を願つてよかろうと考えて居ります。

本日は是等の同志と先生の御親戚、知己、朋友等が相会して先生の胸像を前にして往時を追懐しつゝ追悼会を営んで居ります。

在天の英靈希くば吾等の眞心を享け給わんことを

昭和二十三年二月二十二日

東京歯科大学長　奥村鶴吉

血脇君の思い出

池田成彬氏談

血脇君の思い出話というてもね、その最初は六十幾年のむかしの事になるから相当ぼけやりとしてしまつているがね。血脇君に初めて会つたのは明治十五年頃、私が十六歳の時だつたと思う。私の方が血脇君より二歳の年長だ。

当時本郷の元町に済文学舎というのがあつて、そこで血脇君と会つた。この学校は高等学校の予備校のようなもので、今にして思えば拝内道場や高田早苗という人達が先生で講義をしてくれたんだが、その頃は有名でも何でもないたゞの貧乏書生でまだ若い二歳さ。

この学校に暫くいてからやめて、それから共立学舎に入学した。こゝでも血脇君と一緒だつた。この三年の間に私の同郷一郷里は米沢だが一中條精一郎、千坂仲一郎伊藤忠太の三君と共に四人で詩や歌を作る会をやつていた。一月に二回位集るのだが作品を添削して貰つてこれを四人で批評し会つて勉強したものさ。任意に遊戯しという課で名づけて遊戯会というこの会に血脇君が紹介して入れたのも私だつたと思うが、血脇君を加えて五人の会となつた。この会は三年続けていたが、その時の作品はこれ位！（池田先生は手真似で下から三尺位をお示しになる）ーも集つていたのだがね、戦災で焼いた。惜しいことをした。

共立学舎に一年余りいて、それから慶應義塾に入つた。私は三田四國町の下宿にいたが血脇君も同じ下宿にいた。所がその下宿の賄がわるくてね、塩気のない汁と半べんが二片ほど浮いているというような粗末なものばかり喰わせるので舎一以下やり切れんのだ。そこで血脇君と二人で相談して牛鍋をとろうということになつた。当時牛鍋は四錢であつたが毎日二人でこれをつゝき合つた訳さ。ところがね、四錢の牛鍋では一月にすると二円二十錢、一人の支出六十錢だろう、それではとうにも堪工合が悪しくなるというので一錢ほど安い豚鍋で我慢することにしてこれで食慾を満足させたのさ。

ー（註）この八十翁は嘗ての日本銀行総裁、大蔵大臣、日本財界の総師たる閣下その人である。明治の頃の豚鍋の匂いを追うかの如くこゝで思ー「そのの若々しい明眸を閉じられる）ーそうだよ、その頃の血脇君は手織木綿の着物で冬でも羽織なしさ、もちろん足袋もはかない、それに白いのか黒いのか判らない程よれた白木綿の帯をぐるく巻にして、お負けに臀丈があるもんだからつんつるてんの着物の下からニヨツキと脛が飛出しているといつた格好だつたよ。

しかしその頃から話しつぶりが頗る年のそれと同じように如何にもおだやかな穏健で丁寧でという風でこれは六十年経つても少しも変らなかつた。といつて豚鍋をつゝつき合てる時の話は大抵政治論が中心であつたが、談論が難んで興奮してくると、あのおとなしい血脇君が「どうだい、ヒマラヤ山を歩いて越えようじゃないか」なんていい出したことを今でも覚えている。血脇君の眼玉が大きくて光つているので吾々はよく「お前はビスマークに似ているぞ」なんて言つたものだつたな。

明治二十一年七月に私は一足先きに慶應を出たが、西洋人に英語を習いたいと思つてね、当時横浜軒に泊つていた或る外人のところに通つていたのさ、その関係で横浜軒の二、三軒先きの新屋の二階に下宿していたのだが父さんに血脇君が来て一緒になる事になつたきたない下宿だつたがね、こゝで二人で自炊して暮らした。明治二十三年に此西洋人が横浜へ移つたので私も一緒について行つた。それからアメリカに渡つて満五年、帰つて見ると血脇君は高山先生の玄関番になつている、「なんだお前、歯医者になるのかい」というようなことからいろいろと話し合つた。その時に野口英世君のことも話していたのを覚えている。私はそれから銀行に入つた。

その頃私は歯が悪くなつてね、丁度親友に血脇君がいるのだから当然血脇君に診てもらつたのさ。ところがゴムを填めてもらつたのはいゝが、帰つて飯を喰べた取れちまつた、翌日、とれたよといつたら又填めてくれた、ところが帰つて飯を喰べたら又取れちまつた、これではいくら何でもこれ以上取るかゝしては気の毒だからねもう血脇君のところへは行かずに自ら断つと信ずると思つまでやるつもりでいたのだがね、職災で焼いた。惜しいことをした。

血脇君を思う

北島、多一氏談

血脇君と私とは同年であります。古いおなじみですがその親友の初めのころ、野口英世君はまだ使用病研究所が北里研究所に助手をしていた。吾々としては深い関係のあるその野口が血脇君に非常に厚介になつた。学問のそばに非常に熱心であつたが、あいつの人の繋で縁薄の人だなかつたから関係して始末にならなかつた。従つて血脇君に世話にならついながら嘘分迷惑をかけた。例へば旅費をやつても貰つてしまうとか大変迷惑をかけた。それをもう世話をして世界の野口として立つ様にしたそういうところを言うと血脇君ほ人を見る明がある。吾々も野口はやる男とは思つたがそれはとほ思はなかつたのであります

血脇君は慶應の人でありましたが酒豪で一種の人生観をもつていて自ら断つと信ずると思つまでやる

良い人格をもつていた、永年つきあつて誠に良い人であつたと思う血脇君は易者をやつていたが人相の方も先生なかく研究していて、あの人間は注意しなければかんなどよくいわれた。或る時の事であつた法医学仲間十五六人の会合で御馳走のあとだつたが、不図血脇君が或る人を指して「あれの運命はあと二年だな」と言いうのです、変な話だと思つていたがそれから二年位たつてその人は死んだ。

そんなことを考えると先生は一種の人生観をもつていた面白い医学の人であつた。なくてならぬ人で吾々の間に敬服しつければならぬ人であつたと思う。先生がなくなられてからもう一年、私は毎日生き残つているがたゞ感慨無量と申す外はありません。【写真は追憶を語る北島先生】

血脇先生大學葬の記

加藤倉三

日本歯科医界の恩父、日本歯科医師会名誉会長、東京歯科大学理事長、故血脇先生の御霊儀は先生の位記遺勲、叙勲の御沙汰書を奉じ、祭壇中央に長き辺りより関わつた同三善氏、同徳二氏等御遺族入場、祭壇向つて右方に着席せられ次で来賓の入場あり、聯合軍総司令部公衆衛生福祉部歯科医学課長ダアル・ビー・リジレー中佐も通訳鶴田氏を伴い正面来賓席に着席され、帰つて見ると血脇君は高山先生の玄関番になつている、「なんだお前医師会役員、同文部省、同厚生省、同教職員会員となり、鳳凰の用意を備えるうち、定刻前より多数の参列者を迎えた

祭場に当てられた一階大ホールは正面壇上に祭壇をしつらえ、正面に御遺骨を安置し、右に一部血脇守之助先生遺位と大書した弔旗を掲げ、祭壇中央に長き辺りより関わつた位記遺勲、叙勲の御沙汰書を奉じ、祭壇左右より一階ホール周辺、廊下に渉つて、内閣総理大臣を始め文部、厚生両大臣以下朝野各方面より贈られた花輪、献花が所狭きまでに立並び悲しくも美しく粧われた

十二時三〇分、金殿生徒各所定の位置に着き会葬者は、さしもの大講堂も通の幽し、満場立錐の余地無く左右廊下より正面玄関迄身動きさら出来ぬ有様であつた

定刻午后一時、護國寺住職以下五名の僧侶の読経開始せられ、香煙漂渺の中に、本仁人をしたわられつゝ、血脇日出男氏、同夫人血脇芳雄氏、同夫人浦野義夫氏、同夫人、浜野規矩雄氏、同夫人、同三善氏、同徳二氏等御遺族入場、祭壇向つて右方に着席せられ次で来賓の入場あり、聯合軍総司令部公衆衛生福祉部歯科医学課長ダアル・ビー・リジレー中佐も通訳鶴田氏を伴い正面来賓席に着席され、次記次第に従つて弔詞が相次いで朗読せられた。

一、リヂレー中佐弔詞
二、文部大臣弔詞
三、厚生大臣弔詞
四、厚生省衛生局長弔詞
五、日本歯科医師会長弔詞
六、歯科医学専門学校々長代表弔詞　中川大介氏
七、東京都歯科医師会長弔詞　小椋義男氏
八、同窓校友代表弔詞　榎本義彦氏

ことに同窓校友代表榎本氏の声涙ともに下る先生追慕の弔詞に場内各所に白きハンカチ頻りに動き感激ひとしおに深いものがあつた。

ついで司会者渡辺昌宏氏より、時間の都合にて弔詞二〇通の朗読を御遠慮する旨の挨拶並びに米國コロラド州デンバー居住の富本氏以下三六五通の弔電受納の報告があり閉会者に移つた。

まつ奥村葬儀委員長の焼香あり御遺族血脇日出男氏、本仁人、日出男氏夫人以下御親族焼香せられついで来賓、各国体代表者の焼香あり、終つて奥村葬儀委員長の挨拶をもつて告別式を滞りなく終了し、引き続き一般会葬者の焼香に移つた。先生御生前の徳を偲ぶ遺骨は遺族の地よりの来葬者を交え、数千の会葬者引きもきらず、きわめて盛大なる大学葬が執り行われた

EISAD
衛材レジン歯
六本一組、二〇組箱入
東京小石川　日本衛材株式会社

伊沢先生のところを去りて活潑してもらつた。とにかく血脇君は無器用な人ときめて二度と再び顧のことは頼まなかつた。

それから後、仕事の関係でお互にあまり会う機会がなくなつてしまつたが血脇君は歯科界に大をなし政治的にも活動して非常に成功された。人格がよかつた、横隆になる人に出来ていた様、人の上に立つて人を導くべき人だつた様、非常に責任目を親切で人格中心の人だつたよ。私の最も古い友人の一人として血脇君の思い出は言い尽せぬ問題であるだけに一層なつかしく感ずることが多いのだよ。

血脇先生の追憶

亀山孝一氏談

血脇先生一週忌に当りましてこの追慕会に参列することが得ましたことは私の幸に光栄とするところであります、私は永年御宅に親密関係しておりました為めに種々血脇先生の御親導を蒙りましたので是非思出話をしようと御命令で一年前の御通夜の際にも御指名を受けたのでありますが、其時よんどころなき差支へで出席出来ることの出来ませんでしたことを非常に遺憾と存じておりましたところ本日のお招きによりまして寒の私自身進んで喜に浮ぶ二二の思出話を致して見度いと存ずる次第であります

私が最初信頼を拝命いたしましたのは大正十三年の春でありまして内務省衛生局に達入りました時であります、丁度その時たまく歯科医法令制定問題が起りまして歯科医師会と医師会との間に激しい闘争が展開されたのでありますが本日こゝに御列席の北島先生なども医機分業問題に大に反対された急先鋒であられた訳でありました、即ち歯科医師会側では歯科分業を主張し医師会側は任意分業を主張して両々相譲らず而かも此問題が中央衛生会に移管せらるゝに及んで

第四二回例会

母校附属病院にて

示説四十三題

臨床各教室を総動員

二月廿二日午後一時第四二回本会例会は新設成つた臨床附属病院において、臨床各部並に病理教室を総動員して、四十三題に及ぶ示説を二階に繰り拡げた

四百名に及ぶ参集会員は、次から次へと新知識の吸収に忙しく、演者も極めて熱心に且つ親切に示説を進め、非常に有意義であつた

示説の演題並に担当者は次の通り

テーブルクリニック演題及担当者

（一）保存部

一、「ラバーダム」防湿法　杉山不二雄氏
二、根管治療法　長谷川正康氏
三、根管充塡法　関谷水治氏
四、歯髄失活、抜髄、生活歯髄切断法　澤野陽氏
五、間接歯髄覆罩法　渡辺雄氏
立石光氏　斎藤菊夫氏
六、歯髄鉤掻抓手術　船木善也氏
七、歯髄切除手術　木村吉大郎氏
市岡力氏
八、ノイマン氏退治手術　木村吉大郎氏
岡口敏彦氏
九、アマルガム充塡法　入澤春弘氏
小林保夫氏
一〇、埋没並に鑄造法　若林一郎氏
貫山延子氏
一一、間接法によるインレー調製法　兵塚弼夫氏
真包剛夫氏

（二）外科部

一、最近の歯髄炎及口内炎の療法　中村保夫氏
片山良一氏
二、止血剤としてのアルギン　田崎嘉孝氏
今村嘉孝氏
三、ヌルフオンアミド剤の臨床と用法　長尾喜重氏
中村正夫氏
四、ペニシリンの薬理と用法　宮崎享三氏
大多和春一氏
五、シュワルツマン現象の臨床的價値　天野十郎氏
丸山敏夫氏
六、歯光色素（理研イルミノーゼ）の應用について　小林淳造氏
小見勇氏
七、動脈注射法の実際　高橋庄二郎氏
福口徹治氏
八、麻酔薬の傳達麻酔　田中八郎氏
藤原栄一氏
九、下顎孔の位置変異　天野十郎氏
安井哲郎氏
一〇、潜在性ヴイタミンC欠乏症の判定法とルンベルレーデ氏反應　松井十郎氏
松本義教氏
一一、「シリケート」セメント充塡法　瀬谷政弘氏
今井政弘氏
一二、「アクリリックレジンインレー」調製法　河村秀雄氏

（三）補綴部

一、アルギン印象　北村勝博氏
吉見勝博氏
二、アルギン分離剤　江河友和氏
三、金属模型調製法　藤本忍氏
四、線刻調製法　藤上義久氏
岩民義民氏
五、鑄造鑄接　古屋貞下氏
貞下俊一氏
六、自家考案平行測定器　鶴賀弘氏

（四）矯正部

一、不正咬合の診断と咬合誘導予測決定法　藤原山本義久氏
義茂氏
二、器械力を主とする装置の変遷　片倉義彦氏
三、現在当教室で使用せる材料（コントロンド）による矯正器の調製法　山本義民氏
片倉義民氏
佐川隆氏
四、機能力を主とする装置の変遷　小沢思夫氏
小沢登氏
五、小児歯科に関する注意事項　中村隆氏
須永喜代忠氏
六、合成樹脂チャケットクラウン　清水敏氏
田中敏氏
七、合成樹脂充塡法　由夫氏
金雄氏
八、合成樹脂弾性義人法　岡田幹彦氏
九、合成樹脂ブリッジ調製法　奥口外川
一〇、フチーツト調製法　黒澤隆氏
観澤隆氏

（五）病理学教室

一、各種の歯科疾患について天然色顕微鏡写真と病理組織標本直接映写教授の展示　松宮誠一氏
二、外科学　三階外科部診療室
三、補綴学　四階補綴部診療室
四、矯正学　四階矯正部診療室及び保存部診療室の一部
五、病理学　四階示説室

（六）歯科医学専門学校々長代表弔詞　中川大介氏
（七）東京都歯科医師会長弔詞　小椋義男氏
（八）同窓校友代表弔詞　榎本義彦氏

ことに同窓校友代表榎本氏の声涙ともに下る先生追慕の弔詞に場内各所に白きハンカチ頻りに動き感激ひとしおに深いものがあつた。

ついで司会者渡辺昌宏氏より、

歯界に冠たる
松風製品
バイオレジン・エナレジン・レジン歯
レジン専用インゼクションフラスコ
松風陶歯製造株式会社
京都市東山区師団通路松風橋南

科学者の良心が生む
ヂーシーの歯科材料
而至化学工業株式会社
電話赤羽(80)二七七三・三二四・三八〇〇
東京都板橋区志村本蓮沼一八三

本会支部長一覧

さきに本会新会則が決定、実施せられて以来、同新会則の主旨に則り各支部においては早速支部備し、活潑な活動を既に開始している。

茲に新支部長の氏名、住所を掲げる。尚新支部長の報告の来たないところは、従前よりの支部長を一應掲載したが、至急決定の上本部へ御報告願いたい。

北海道（聯合支部）星井徳一
札幌市北二條西三丁目、（函館）松富信一
函館市本町五、（札幌）田中保吉
札幌市南十條西六丁目（小樽）九津見盛
小樽市入船町
三ノ二二、（旭川）神保貞見
旭川市四條通八ノ右六号、（室蘭）北沢綱治
室蘭市浜町、（釧路）綜本金之丞
釧路市幣舞町一九、（十勝）杉田宗吉
帯広市東一條通二丁目、（北見）佐藤福七
北見市一條通西三丁目、（岩手）佐藤義勇
盛岡市肴町一八〇、（山形）大浪雄三
山形県大町、（福島）萩原義雄
平市鎌倉町一六
田端町五五一、（荒川区）久木留廣
南千住八ノ二〇五、（板橋区）
練馬区三郎　板橋町八ノ二〇四九
（足立区）大住保　千住柳町三八
（江戸川区）宝田清重郎　小岩町
二ノ二、九二二、（墨田区）鈴木
伊三郎　下小松町一ノ三四、（練馬区）森田信一　関町二ノ三七五
三、（八王子市、南多摩郡）牛久保長一　小宮町東一ノ二八三、（立川市、北多摩郡）矢島源太郎　府中町、（西多摩郡）石井英一　青梅
二ノ二、九二二、（墨田区）鈴木
伊三郎　下小松町一ノ三四、（練馬区）森田信一　関町二ノ三七五
三、（八王子市、南多摩郡）牛久保長一　小宮町東一ノ二八三、（立川市、北多摩郡）矢島源太郎　府中町、（西多摩郡）石井英一　青梅
（神奈川）牟田新次郎　川崎市南幸町三ノ一七五〇、（山梨）小川東洋男　甲府市六仙町一〇五、（長野）佐藤信雄　上田市銀町、（静岡五十嵐達　熊谷郡籠原町一二
弘之　岐阜市中大案町二〇、（富山）清野興四郎　高岡市白銀町、（石川）和田直樹　金沢市下新町
三八、（福井）井上貫　南條郡武生
町一六、（三重）勝田多定　一志郡久居町、（滋賀）岡野清　長浜市四本町、（和歌山）雲田男勝　和歌山市
今福二二九、（奈良）岡本吉嗣　北葛城郡高田町本町四、（京都）森本達　京都市下京区東洞院五條上ル
（大阪）小室定郎　大阪市岡山南野区阪南中町四ノ一五、（兵庫）松村正道　神戸市兵庫区会下山町一ノ九ノ二、（岡山）辻正子郎　岡山市上伝馬東町一ノ二五一、（鳥取）林一彌　鳥取市立川町二丁目、（島根）亀田潔　高田郡三田村福川、（島根）佐和和美　松江市寺町、（山口）佐々部謙一　下関市長府町、（徳島）米津直風　徳島市幸町
二丁目、（香川）光沢徳雄　三豊郡観音寺町柳町、（愛媛）西村一雄　松山市堀端二五一六、（高知）横矢
琵包　高知市本町二五、（福岡）田中正実　三潴郡城島町、（佐賀）古賀立身　唐津市山下町三丁目、（長崎）本下芳夫　長崎市古川町六、
（大分）河村高年　別府市南町、（熊本）北原信英　熊本市西坪井町一六、（宮崎）浜田長寛　宮崎市旭通一ノ二〇、（鹿児島）山口正人　鹿児島市東千石町五六、

母校々内視察委員会設置

今般母校の人的、物的の整備の完成を目指して校内視察委員会を設置し、名実共に立派な歯科大学を建設すべく活動を開始した

去る三月二日左の六教授が第一回目の委員に任命された、なお委員の任期は半ケ年である

脇林より鑄鐵久、大井清両教授
基礎より津崎幸迪、松宮誠一両教授
市川病院より高橋教授
予科より加藤政雄教授

同窓会役員会録事

一月十七日午後二時　母校教授室

二月例会しつる協議、高木幹事より会報第二号発行経過報告、同四時より会議室において大学建設委員会委員並に母校教職員合同茶話会、意見交換、

一月三十一日　午後一時　母校会議室

東京都支部長会開催、役員会員出席会員より母校近況、國家試験の状況、血脇先生追悼会に就いての説明、大井幹事より二月例会の説明原幹事より会費徴収に関する協力依頼、高木幹事より会報発行に関し報告並に協力依頼、名簿整理に協力依頼等あつて後懇談

特別講義繰續

さきに母校においては歯科医育の強化刷新の線に沿い東京医専河野教授、日本歯専出口教授にそれ〴〵特別講義を依頼したが、引続き東京医専の高橋新次郎教授に歯科矯正学を同じく宮崎吉夫教授に口腔病理学の講義を依頼し、第四学年生及び教職員が聴講した

村瀬正雄幹事辞任

本会幹事村瀬正雄氏は今回東京都歯科医師会役員に就任せられたとのこと、かねて辞意を表されていたが、二月廿日役員会において辞任を承認された

母校々内視察委員会設置

今般母校の人的、物的の整備の完成を目指して校内視察委員会を設置し、名実共に立派な歯科大学を建設すべく活動を開始した

去る三月二日左の六教授が第一回目の委員に任命された、なお委員の任期は半ケ年である

脇林より鑄鐵久、大井清両教授
基礎より津崎幸迪、松宮誠一両教授
市川病院より高橋教授
予科より加藤政雄教授

同窓会役員会録事

一月十七日午後二時　母校教授室

二月例会しつる協議、高木幹事より会報第二号発行経過報告、同四時より会議室において大学建設委員会委員並に母校教職員合同茶話会、意見交換、

一月三十一日　午後一時　母校会議室

東京都支部長会開催、役員会員出席会員より母校近況、國家試験の状況、血脇先生追悼会に就いての説明、大井幹事より二月例会の説明原幹事より会費徴収に関する協力依頼、高木幹事より会報発行に関し報告並に協力依頼、名簿整理に協力依頼等あつて後懇談

奥村会頭住所移轉

今般奥村会頭は左記に移転せられた。

東京都目黒区柿木坂一二六番地

東京歯科大学予科入学試験終る

第三回母校予科入学試験は去る三月十五、十六、十七日の三日間に亘り、水道橋本校舎において実施せられた

應募者四百数十名中から一二〇名が選抜合格し、此で予科三学年が全部揃い四月から校舎、教授陣の充実と相まつて期学の研鑽に励まれることは嬉しい次第である

第五三回母校卒業式挙行さる

三月廿五日午後一時半より母校ホールにおいて第五三回卒業式が、来賓、父兄、同窓多数の参列の下に盛大にとり行われた、詳細は次号に発表

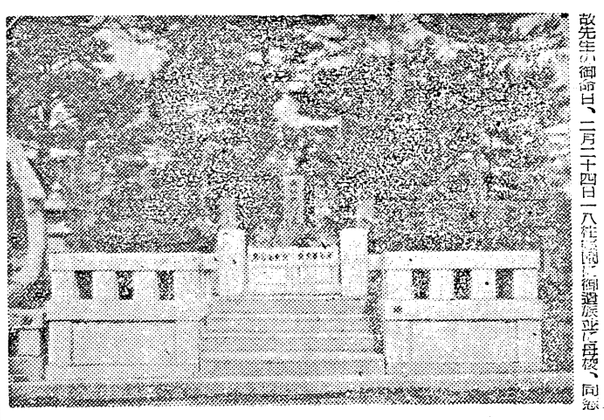
血脇先生御命日

八柱霊園に墓参

故先生の御命日、二月二十四日、八柱霊園に御遺族並び母校、同窓の代表が参集した。

当日午前十時一同松戸駅に集合し、バスにて八柱霊園に至り、お茶屋の「まやや石材店」にて小憩の後、園料医師会の醵出金によつて美事に完成した玉垣に美しい先生の御遺骨に参り、心から先生の御冥福をお祈り申上げた。一同記念写真を撮影して、同十一時半帰途についた。

参列者は血脇先生未亡人、長男日出男氏、次男秀雄氏夫妻、三男靖夫氏夫妻、女婿浦野規矩雄氏夫妻、親戚の稲見氏、大塚氏、学校側からは奥村校長、花沢氏長、安井、西村、鑄谷、尋上、大井、関根、三崎各教授、近藤助教授、佐藤会計課長、坂、三浦両氏、写真班として学生一名、予科側からは高、金井両教授、同窓会よりは吉岡、原中村、北村、中井の諸氏が代表として列席した。（写真は完成した玉垣に囲れた先生の墓地）



絶讃の的!!眞價を誇る
ウキブラスーブラ
壓印床義歯
賣主者ドクトル　大塚豊美

歯科用品の
モリタ
東京店　東京都中央区銀座西三ノ三
京都店　京都市中京区麩屋町二條下ル
大阪店　大阪市南区順慶町四ノ六六
名古屋店　名古屋市中区針屋町一ノ六
小倉店　小倉市室町四丁目
工場　京都市伏見区東浜南町六八〇
京都市右京区西院今田町四五

樹脂界のNO.1
ルシーン・ルシンバニッシュ
守屋化学株式会社
工場　東京都港区芝七号地SKS倶内閣芝一五三、群馬県桐生市横山町三八番桐生二五八

店は小さくても
品物は豊富です
小貫歯科商店
東京都千代田区須田町一ノ七
電神田四〇六六

株式会社佐野製作所
東京都千代田区神田五軒町四五
電話下谷(83)一六二七番
四六二一九

製作種目
ハンドピース、コントラアングル
エンジン上部、K・4スリップジョイント
ニューパラゴン昇降治療台
三殖株式会社
埼玉県與野町上落合
東京連絡事務所
東京都千代田区下谷
電話下谷(83)二五一番

抜歯鉗子プライヤー金冠ハサミ棒物製造
歯科器械材料一般卸小賣
有限会社進興歯科商社
営業所　東京都中央区日本橋本町四ノ一〇
工場　東京都荒川区町屋三ノ一五二
電話　茅場町(66)四〇四一、五二〇八

各型ユニット、昇降治療台、薬和釜、ロール、足踏エンジン、咬合器、プラスコ其の他技工用具金鋸
吉田製作所
本社　東京都千代田区神田須田町一ノ一
営業所　東京都千代田区神田須田町一ノ一
工場　東京都北多摩郡小川村
電話　大阪市北区東淀川区十三本町一ノ一七番地
大阪営業所　大阪市北区東淀川区十三本町一ノ一七番地

東京歯科大学理工学研究室御指導
アルギン分離劑
最優秀樹脂分離劑
フチコン
フチリット
製造元藤化成株式会社

歯科用品全般取扱
吉田製作所特約店
卸商　日向歯科商店
東京都品川区五反田一丁目二二五
電話大崎二一七四番

歯科標準製品
健康指定
ルス1プラ既成鋼及鋼用線、ニツケル合金用新スープラ鋼、冠用弱強度用銀合金シルブライト、シルブライトソルダー、アマルガム合金スーパーアロイ、鑄造メロツト、リンガルバー、パラタルバー、新製高銅次鋼及材、其の他各種補綴品
東京都品川区大崎本町三ノ五八五
電話大崎(48)九二七、四六一五番

合資会社大日本歯科技術研究所

終戰以後③

奥村鶴吉 大学殿立にともなうて、本校の「寄附行爲」が変更せられた。その変更の第一は表題を財團法人東京歯科大学附属病院の維持経營

東京歯科大学寄附行爲と改めたこと第二には本財團の事業として次の五項目を加えたことである

一、大学令に依る東京歯科大学の維持経營
二、東京歯科大学附属病院の維持経營
三、専門学校令に依る東京歯科医学専門学校の維持経營
四、研究所の維持経營
五、其他本法人の目的を達する爲め理事会に於て必要と認める事項

右の規定によって明かな如くに本財團の経營するところのものは大学と大学附属の病院と専門学校並に研究所とが主要なるものである。専門学校は大学の附属ではなく、同窓個々に独立したものであるということは、これによって明瞭である

次にこの寄附行爲の規定によれば、殿立者たる血脇先生はその任期を終身とし、その他の理事は任期を四年としてある。終身理事は遺言その他の方法によって自己に代ぐべき理事を指定することが出来るが、但しこの指定をなさずして死亡又は退任した場合には終身理事というものはなくなるのである。これは第十一條に明記してある。ところが昨年の二月二十四日に血脇先生が亡くなられた際この遺言等がなかったので、当然その家を相続した息子さんもこの財團の役員たる点において何ら関係がないことになった。云いかえれば血脇先生が過去五〇年間本校経營の衝に当られたにも拘わらず、先生の逝去以来本校と血脇家との間には本校経營の上において何等のつながりを持たないことになることを明白にされた譚であって、この点は同窓校友の諸君に銘記して置きたいと思う。この集会は第四十二回般病院即ちもとの製器加病院において開かれたもので、私も傍聴の許可を得て午前中は岩山教授と共にテープルクニックを聽講した。その席上には、プルBII大佐、ウオーカーWalker大佐、我々もよく知っているリンシレー中佐、記念式にも出席したディヴンDeson中佐等が出席して、若い人々の示説も熱心に見せられた。午後は一時半から始ったが、この時私は長尾助教授と共に出席した。先づ最初にバースBartlett佐の「歴史的な日本の歯科器械、模型術式に関する興味ある病理学的標本」と題する講演があった。そのプログラムの中には、こういうことが記載添えであった

It is anticipated that Dr. T. Oiumura, DDS, Sc.D, Dean of the Tokyo Dental College, will be present to describe and discuss the above display

そのような話でバース少佐の次に私は英文で出席をしたもの丶説明を試みた。この展観は四群から成立つと云える。その第一群は日本固有の義歯製作法であって、この技術は余然日本において創始したものであると考えると共に、東京震災後に武内雅三君から発明された義歯製作の順序、器械、材料、本製義歯等を示し、個別的に使用した義歯も見せた、同時にこの製作に従事したのは決して市井の技術者ではなくして、相当教養の高い専門家が手によって義歯製作が行われたことを説明した。その一例として高山歯科医学院以外本校を除く所縁する丹波雄蔵の肖像を示して、かような風俗は当時の高級な人々なければ用いなかったと云うことを明かにした。この出品はこれに附属する写真と共に出席者一同の大なる興味を惹き起したものと思われる。だが、私は更に、併しこの方法は我々の学校では皆から全く教えようと考えたこともないと説明したので、皆笑い出した

展観の第二群は日本に近代歯科医学を輸入したアメリカの歯科醫師の事蹟を説いた。先ず青山鑿地師の事蹟を説いたイストレーキ氏の、末状の「アルギン」印象材を研究している会社もあるので、近々市場に現れるかもしれない

以下私は前記の安井、薗見、神山三君の研究成績を基礎として現在我々の学校附属病院で実用に供している簡単な「アルジネート」印象材の製法ならびに使用法を述べることとする。これはパテー状「ソーダ」を應用する方法で、これなれば人手も容易であり、價格も比較的安いので本病院では一時これで間に合せているわけである。勿論米国製はアメリカ製品に劣らない粉末状の優良品を作って実用に供したいと目下研究中であり、既に「アルギン」酸「ソーダ」または「カリ」の粉末、石膏賦形材から成れるものと「アルギン」酸の粉末に「アルカリ」石膏賦形材とを加えたものを実験的には製ることに成功しているが、まだ工業化されるに至っていない

さて我々の病院で目下使っている市販の「アルギン」酸「ソーダ」はパテー状いわば水溶液で約25%の「アルギン」酸「ソーダ」を含みその外に多少の不純分を混じている。これに水をまぜて15—18%の「アルギン」酸「ソーダ」溶液とし、かつPHを適当に補正してから石膏を入れて練和し「トレー」に盛って印象を採得するのである。そうすると「アルギン」酸「ソーダ」の水溶液は石膏中の「ルカシウム」と複換反應を起して水に不溶解性の「ルシウム」塩となり硬化するのである

硬化後の状態は手触感まったく天のようで、弾力があり、印象面はいわゆる「モデリングコンパウンド」または「ワックス」などの賦形材を添加する必要が起ってくる。米國の製品にはかゝる賦形材を加えたものが多いらしい。そのほか酸化鉛を25—75%も加えたものもあるらしいがこの点に就ては後日の研究にまつことゝする

三、硬化遅延材　練和後口腔内において「トレー」を入れて印象するまでにあまり早く硬化しては困るので「ソーダ」燐酸、「アルカリ」塩などが実驗上良好である

四、硬化促進材　温度の低いときなどに使用されるあまり必要でない。$CaCO_3$などが適類する。

五、硬化増強材　「アルギン」酸「ソーダ」の種類により硬化強度の低いときに用いる、今までの実驗で見つけだしたものは硼砂、硼酸「アルミン」酸「ソーダ」Na_3AlO_3などである。だゞしこれらを多量に加えるとかえって脆弱となり、且硬化の速度にも微妙な影響を及ぼすから注意を要する

六、石膏　現今我々の入手できる石膏は品質が極めて不安定で困るそこで石膏の性質に應じて「アルギン」酸「ソーダ」の濃度やPHなどを変更せねばならぬ不便がある。石膏は勿論粉末であることが必要で二水または無水のものではうまくゆかない。また石膏の量も硬化速度や強度に関係がある

七、温度　かなりに大きな影響がある。即ち温度が高ければ高いほど硬化は速くなる。従って夏と冬では配合を変える必要が起ってくる。最も適当な温度は18°Cから24°Cの間であることが実驗上確定された

組成

我々はいま市販の粗製「アルギン」酸「ソーダ」を購入し、前に述べた色々な条件を考慮してこれを適当に補正し、練和開始後6—8分位で硬化して相当の強度の塊さと弾性をもった固形体となるようにしたものを自製して使用している。いま簡単な一例を挙げて見る

石膏	18g
「アルギン」酸「ソーダ」	50g
水	1000cc

石膏18gのものは約一顆分として実用に適する。この「アルギン」酸「ソーダ」は東京日本橋の小西安兵衛商店より購入した「パテー」状の暗褐色、海藻臭のある粗製品で「アルギン」酸「ソーダ」を約85%含んでいるから水で薄めてその含有量を18%位にし、PHを6.0位にするために比色試驗法により炭酸「ソーダ」を加えて調節する。石膏はなるべく品質のよい半水性のものを用いる。こんな簡単な製剤であるがこれでも実驗上相当の強度や弾性をあらわし、アンダーカットも模型に印象される。

使用法

一、「トレー」は「デントコール」（樂天製剤）に用ひるものと同様に有孔であって、周壁の高いものがよい。普通の「トレー」に孔を多数にあけるか、或は「モデリング」などで「トレー」に凹凸をつけたものでもよい。要は印象材が「トレー」からはづれることを防ぐためである。

二、練和法　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分間位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

三、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

四、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

五、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

六、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

七、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

八、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

九、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

十、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

簡單な水膠性 アルギン印象材の作り方とその用法

花澤鼎

印象材の硬化に及ぼす色々な條件

一、PH　「アルギン」酸「ソーダ」水溶液は中性または「アルカリ」性であるが、これにCaを作用させると速に沈澱、それが中性に近ければ近いほど速に反應が起る。そして出来たCa塩に強「アルカリ」例えば炭酸「ソーダ」液を加えると再び「アルギン」酸「ソーダ」液に変ずる。この理由から我々は「アルギン」酸「ソーダ」のPHを変化させることにより印象材の硬化時間を左右することができるのである。実驗上からするとPHは6.8位が適当である。

二、濃度　「アルギン」酸「ソーダ」溶液の濃度は印象材の硬化速度、強度、弾性などを支配し、また石膏練和の難易にも影響を及ぼすものである。即ち濃厚な場合には硬化速度は遅くなり、ある濃度以上に達すると硬化しなくなる。これを硬化させる目的で多量の石膏または他のCa塩を加えると反って弾性を失ひ、練和も困難となる。これに反し稀薄な場合には反應は速となり、石膏との練和は容易となるが、硬化後の強度が減少する。従ってある程度の濃い溶液を使用したいときにはこれに$MgCO_3$「タルク」、珪藻土、「カオリン」粉末状「ワックス」などの賦形材を添加する必要が起ってくる。米國の製品にはかゝる賦形材を加えたものが多いらしい。そのほか酸化鉛を25—75%も加えたものもあるらしいがこの点に就ては後日の研究にまつことゝする

三、硬化遅延材　練和後口腔内において「トレー」を入れて印象するまでにあまり早く硬化しては困るので「ソーダ」燐酸、「アルカリ」塩などが実驗上良好である。

四、硬化促進材　温度の低いときなどに使用されるあまり必要でない。$CaCO_3$などが適類する。

五、硬化増強材　「アルギン」酸「ソーダ」の種類により硬化強度の低いときに用いる、今までの実驗で見つけだしたものは硼砂、硼酸「アルミン」酸「ソーダ」Na_3AlO_3などである。だゞしこれらを多量に加えるとかえって脆弱となり、且硬化の速度にも微妙な影響を及ぼすから注意を要する

六、石膏　現今我々の入手できる石膏は品質が極めて不安定で困るそこで石膏の性質に應じて「アルギン」酸「ソーダ」の濃度やPHなどを変更せねばならぬ不便がある。石膏は勿論粉末であることが必要で二水または無水のものではうまくゆかない。また石膏の量も硬化速度や強度に関係がある

七、温度　かなりに大きな影響がある。即ち温度が高ければ高いほど硬化は速くなる。従って夏と冬では配合を変える必要が起ってくる。最も適当な温度は18°Cから24°Cの間であることが実驗上確定された

組成

我々はいま市販の粗製「アルギン」酸「ソーダ」を購入し、前に述べた色々な条件を考慮してこれを適当に補正し、練和開始後6—8分位で硬化して相当の強度の塊さと弾性をもった固形体となるようにしたものを自製して使用している。いま簡単な一例を挙げて見る

石膏	18g
「アルギン」酸「ソーダ」	50g
水	1000cc

石膏18gのものは約一顆分として実用に適する。この「アルギン」酸「ソーダ」は東京日本橋の小西安兵衛商店より購入した「パテー」状の暗褐色、海藻臭のある粗製品で「アルギン」酸「ソーダ」を約85%含んでいるから水で薄めてその含有量を18%位にし、PHを6.0位にするために比色試驗法により炭酸「ソーダ」を加えて調節する。石膏はなるべく品質のよい半水性のものを用いる。こんな簡単な製剤であるがこれでも実驗上相当の強度や弾性をあらわし、アンダーカットも模型に印象される。

使用法

一、「トレー」は「デントコール」（樂天製剤）に用ひるものと同様に有孔であって、周壁の高いものがよい。普通の「トレー」に孔を多数にあけるか、或は「モデリング」などで「トレー」に凹凸をつけたものでもよい。要は印象材が「トレー」からはづれることを防ぐためである。

二、練和法　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

三、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

四、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

五、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

六、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

七、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

八、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

九、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

十、練和後　まづ前記の割合で「アルギン」酸「ソーダ」と石膏を清潔な「ラバーボール」中により、水を加えないで石膏ヘラで直に力強く練和する。練和の温度は二〇度前後がよい。温度が低いと硬化は遅くなる。練和の時間は約一分位が適当である。混和は一分間に約二百回位回轉し、活潑に行うべきである。混和が不充分なためにもいろいろ問題が起ってくる。

賛評

民主日本の建設に当り、歯科医師会も民主的に設立されつゝあることは、誠に慶賀に堪えない。今目使らに、なさんがための事をしておる時でない。凡ての感情を捨て、明朗な歯科医師会を建設することそ、或る歯科医師に嫁せられた責任であり又義務でもある。歯科医師会のなすべき任務は多事多端であろう。如何なる機想のもとに歯科医師会が運営されて行くか知らないが、会並びに会員の為のみの会でない様にしたいものである。

今や國民はあらゆる忍に於て厳様状態に近くともすれば冷酷を失い勝である。この時にあたり、我々歯科医師は、すみやかに自覚して、社会の人々を指導し、新日本建設に努力すべきである。我國民の歯科衛生思想は、欧米のそれに比し比較にならぬ状況にあるのは誠に遺憾である。之は國民の罪もあろうが、指導者並びに我々歯科医師の大なる責任であるといっても過言ではあるまい。

新生歯科医師会に對し同窓会員の協力を要望す

大井清

正しき歯科医療のあり方は、誰もが心得ている筈にも拘らず、之が果して満足に遂行されていたであろうか、大いに反省すべきである。今は雑念すべき時ではなく、正しきことを正しく実行すべき時である。幸いにして、新生歯科医師会が誕生しその第一歩が踏み出されんとしている、民生々活、自由主義を通じて、権利のみを主張し義務を忘ることは利己主義である。例えば歯科医師会に入会することは個人の自由であるかも知れないが光栄ある歯科医師たるとしてクラブ」調製用の義歯模型を作ることができる。我々の経験では金属日本において初めて「メロットメタル」よりも35°Cで焼ける「リッチモンドメタル」（鉛15銅25錫60カドミウム13）がよいと思う

六、印象の正確度　「アルギン」酸「ソーダ」印象材で取った印象の正確度はShimer氏等の研究によると非常に優秀で寒天材料によって得られた場合に比し毫も遜色がないとのことである、勿論有

23000の歯科諸先生のために！

水準の高い機械器具を提共

何はともあれ御照会を

日本歯科機材株式会社

東京都中央区日本橋茅場町二ノ八

電話茅場町（66）1012—3・4977—8

各地同窓会のうごき

京阪神連合同総会

さきに母校の大学昇格とともに、在来の同窓会及び学士会を合つて一丸とする「東京歯科大学同窓会」を創立され、各地方もそれぞれ改組、各支部によって推進されることになった。わが京阪神連合学士会も、その主旨に則り、京阪神連合同窓会に発展、その第一回総会を十一月廿三日午前十時より大阪市近畿日本鉄道光風クラブにおいて盛大に開催した。

奥村学長、花沢院長、岡田教授の御臨席の下、古豪新進約百名が一堂に会しての盛典である。諸君考えてみてくれ給え。奥村、花沢両先生、お揃いで御出席できるということは、今まででも稀有なことであろうし、将来も間もには浴することの出来ない光栄なのだ。特に花沢先生は、御健康上旅行は御無理と拝察されたのに押して御来会下さったのだ。誰が感謝しないでいられるか。この温い御激励に應えないでいられる者があるだろうか。紅潮した顔、顔、顔、に何かを期する強い光、きゝ解説。壮観だ。日本復興は歯科医人からと盲信したのは誤者のみではあるまい。

席上、大阪小室更郎、京都山本達、神戸松村正澄の各支部長より本会をして学会的内容を持たせることを主張され、更に大きく近畿連合同窓会に飛躍せしめることの動議あり、満場一致にて賛成し、明日の活躍を約束した

次に左の講演を拝聴した

一、「母校において應用されつゝある限管処置法とその薬剤について」　関根先生
一、「顎クラスプとその鑄着法」　花沢先生
一、「大学昇格による諸問題」　奥村先生

盛会裡午後四時過ぎ閉会、それぞれ深い感銘を抱きつゝ、帰途につき、有意義な一日を終えた

当日の出席者は大阪五九名、神戸二一名、京都五名、奈良四名、滋賀一名、他六名（小室更郎記）

千代田區支部の新発足

同窓会の新会則により新行政区制による千代田区支部の設立する方針のもとに、吉井保三師田区支部長、神田一郎麹町区支部長発起主催の千代田区支部設立総会が昨年十二月十四日母校会議室に開催され、旧神田、麹町両区の会員多数出席、新支部の設立を満場一致決定した。更に会則の制定、役員選挙を行い、ここに神田、麹町の会員を打って一丸とした新生支部の誕生をみた。

尚現在の会員数は母校教職員を除き五十二名で、これを数班に分け、幹事が班長を兼ね連絡に当ることゝなった。

当日選出された役員は左の通りである。

支部長　春原定栄記）

静岡縣支部

去る一月十八日午前十時より支部の地区新役員の初会合を静岡市駅前松坂屋七階日本間にて開催した、出席役員十四名。本部よりの数々の連絡事項並に支部の運営方策、其他について協議懇談の後、賛成を共にして歓を尽し時の移るのも忘れ大いに水道橋気分を発揮して夕刻散会した（五十嵐進記）

高知縣支部

旧臘七日横矢支部長宅において支部総会を開き、種々協議を行い新会則、新支部長、新役員、其他の事項を決定し、今後支部の結束を益々強化することに意見の一致をみた。

新支部長及び新役員は次の通りである。

支部長　横矢重包
幹事　小松忠義、見本敷喜馬、岡林晟枝（横矢記）

香川縣支部

本部の整備に呼應して本支部においても着々内容整備を計画中である。一月中には支部総会を開催大いに活躍の予定である。（平田記）

徳島縣支部

このたび西條支部長が急逝し、後任に米津直胤氏が新支部長に就任、今後の活躍が期待されている（編者記）

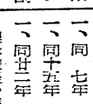
青森縣支部

昨年八月総会の際会員名簿の配布が決議されたが、一層のこと諸報告を加えて簡単な会報を発行しようということになり、本年一月美事な会報第一号が創刊された。（編者記）

母校新任教授（専任）紹介

この度び母校東京歯科医学専門学校教授に新任された新鋭九氏を紹介する

津崎孝道　明治二十七年生
一、大正六年　京都府立医専卒
一、同七年　慶大医学部助手、解剖学教室勤務
一、同十一年　台北医専教授
一、同十二年　京城医専教授
一、同十三年　学位受領（慶大）
一、同十五年より昭和二年まで欧米各國に留学主として佛國「コレッゲ・ド・フランス」にて解剖学を研究
一、同二十一年　母校教授、解剖学講座担当、現歯科教育審議会基礎学部委員長

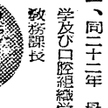

高達　明治二十七年生
一、昭和七年　東歯卒

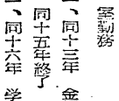
松宮誠一　明治四十二年生
一、昭和五年　東歯卒
一、同　年　母校副手口腔外科教室勤務
一、同　七年　病理学教室勤務
一、同十五年　学位受領（名大）
一、同廿二年　母校教授、口腔病理学講座、病理組織実習担当、現研究部長兼病理学教室指導主任

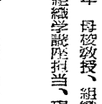
松井隆弘　明治四十四年生
一、昭和七年　東歯卒

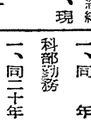
米沢和一　明治四十二年生
一、昭和七年　東歯卒
一、昭和十年　母校副手、組織学研究室勤務
一、同十三年　金沢医大講師生、
一、同十五年　教授
一、同十六年　学位受領（金沢医大）
一、同十八年　金沢医大講師
一、同十九年　金沢医大附属医専教授
一、同二十年終戦とともに母校復帰
一、同二十二年　母校教授、組織学及び口腔組織学講座担当、現教務課長

長尾喜景　明治四十五年生
一、昭和八年　東歯卒
一、同　年　母校副手、口腔外科部勤務
一、同二十年　院長病院口腔外科部副部長
一、同廿一年　学位受領（慶大）
一、同廿二年　母校教授、薬理学及び歯科材料学講座担当


関根永滋　明治四十一年生
一、昭和五年　東歯卒
一、同　年　母校副手、保存部勤務
一、同　七年　病理学研究室勤務
一、同十五年　保存部へ復帰
一、同十五年　学位受領（東大）


三崎鉞郎　大正元年生
一、昭和九年　東歯卒
一、同　年　母校副手、口腔外科部勤務
一、同十一年　レントゲン科勤務
一、同十二年　東京歯大予科幹事兼務
一、同十二年　母校教授、放射線学講座担当
一、同廿二年　母校教授、理工学教室勤務
一、同二十二年　母校助教授、理工学講座担当


金竹哲也　大正十年生
一、昭和二年　大阪帝大工学部金属工学科卒
一、同十一年　母校助教授、理工学教室勤務
一、同二十二年　母校教授、理工学講座担当


一、同廿二年　母校教授、存保部勤務

引揚同窓名簿 其ノ三

朝鮮の部

荒木繁夫（京城）熊本市花畑町九
二、八田末吉（京城）島根縣安濃郡温山村仙山、原田一幸（京城）
熊本縣天草郡牛深町井津二五九五
平下武千代（京城）島根縣那賀郡江津町七二、平下証（京城）山口縣阿武市西岡町、廣瀬文質（京城）
別府市上田の湯、本田一男（京城）
熊本市本庄町中通一ノ二〇一、生田信保（京城）東京都千代田区丸ノ内三ノ一東京都聽内共済組合診療所、今村汎（京城）福岡縣宗像郡関町田久、岩瀬清孝（京城）
高松市栗林町二一六、神翁正（京城）東京都世田谷区松原町四ノ四
五一、北野幸雄（京城）下関市小月町下市、三品被吉（京城）東京都世田谷区上馬町一ノ四一〇相川方、柳梁雄見（京城）東都府ノ郡郡祖足松風園五号、中條弘（京城）東京都文京区本郷台町
二一、雷田清高（京城）鳥取縣東伯郡化見字長江、外圭三（京城）
静岡縣田方郡大仁町中町五四一、外三村介（京城）前同、鈴木実（京城）小倉市九州医専歯科医学科、高田正英（京城）富山縣射負郡婦中町日蔭化学富士工場病院、利根川清治郎（京城）東京都大田区田園調布二ノ七二八、堤喜代士（京城）福岡縣福岡郡碓井町、上原利夫（京城）門司市大里東大門町九ノ
一二神部万、能治太郎（仁川）芦屋市三條町二三四、矢辰親夫（仁川）鹿児島縣川内市宮内町八幡馬場町、井口経敏（安東県）熊本縣玉名郡菊鹿市中区、北川修郎（仁川）
松坂市市長病院歯科、大西英隆（羅津）東京都世田谷区下馬町二ノ八
四、木村松江（安東）大分縣速見郡日出町工業学校、高木健吉（慶南鎮海）麻島縣安芸郡坂村鍋屋、秋月紘一（水港）佐賀縣西松浦郡二里村大里、池上民夫（光州）岡山縣勝田郡大崎村新田、前島鉉吉（咸興）島根縣大原郡加茂町、坪井清一　愛知縣知多郡知多郡谷村字郡谷
○醫院としるも住所不明のもの
田川周二（京城）大脇寿人（京城）健石信義（京城）佐野捨吉（京城）野沢勇（京城）
○消息不明のもの
松川恵勝（京城）、世良正人（京城）、金井純一（京城）、根鞍勝（京城）、志田昭晴（京城）、坂之一丸（京城）増田正行（京城）大岡正一（京城）、鎌倉銀吉（京城）、松本一男（京城）、田口繁毅（京城）、宮本久次（京城）、（御国幽三（京城）笠原完（京城）、伊藤信正（平壌）、安田文雄（平壌）、鈴木信吉（平壌）、鎌田不二雄（平壌）、蹴本徳一（大邱）坂勝子（大邱）、佐藤俊雄（新義州）、高木茂雄（鎮南浦）、村谷長一（鎮南浦）、遠藤義見（開城）、松山正樹（清津